https://www.printo.it/pediatric-rheumatology/JP/intro

薬物療法

版 2016

9. ヒドロキシクロロキン

9.1 性状

ヒドロキシクロロキンは元々マラリアの治療のために使用されました。本薬は炎症のいくつかの過程を阻害することが示されています。

9.2 投与量、投与経路

ヒドロキシクロロキンは錠剤として１日当たり７
mg/kg以下の用量を毎日食事または牛乳と一緒に服用します。

9.3 副作用

ヒドロキシクロロキンの忍容性(軽微な副作用でも使い続けられること)は通常良好です。消化管系の副作用、主に嘔気が起こることがありますが重症ではありません。重要な懸念は眼毒性です。ヒドロキシクロロキンは網膜と呼ばれる眼の組織に蓄積し休薬後も長期間滞留します。この異常の発生はまれですが、投薬を止めたのちでさえも失明に至る可能性があります。しかし、現在使用されている低用量ではこの副作用は極めてまれです。
早期に発見し休薬すればこの合併症を予防できます。したがって定期的な眼検査が必要とされていますが、リウマチ性疾患の治療のために低用量を投与する場合のこのような検査の必要性とその頻度については議論のあるところです*。
*日本では定期的な眼科検査が義務付けられています。

9.4 主要な小児リウマチ性疾患適応症

若年性皮膚筋炎* *日本では保険適応なし
若年性全身性エリテマトーデス* *6歳以上で保険適応あり。